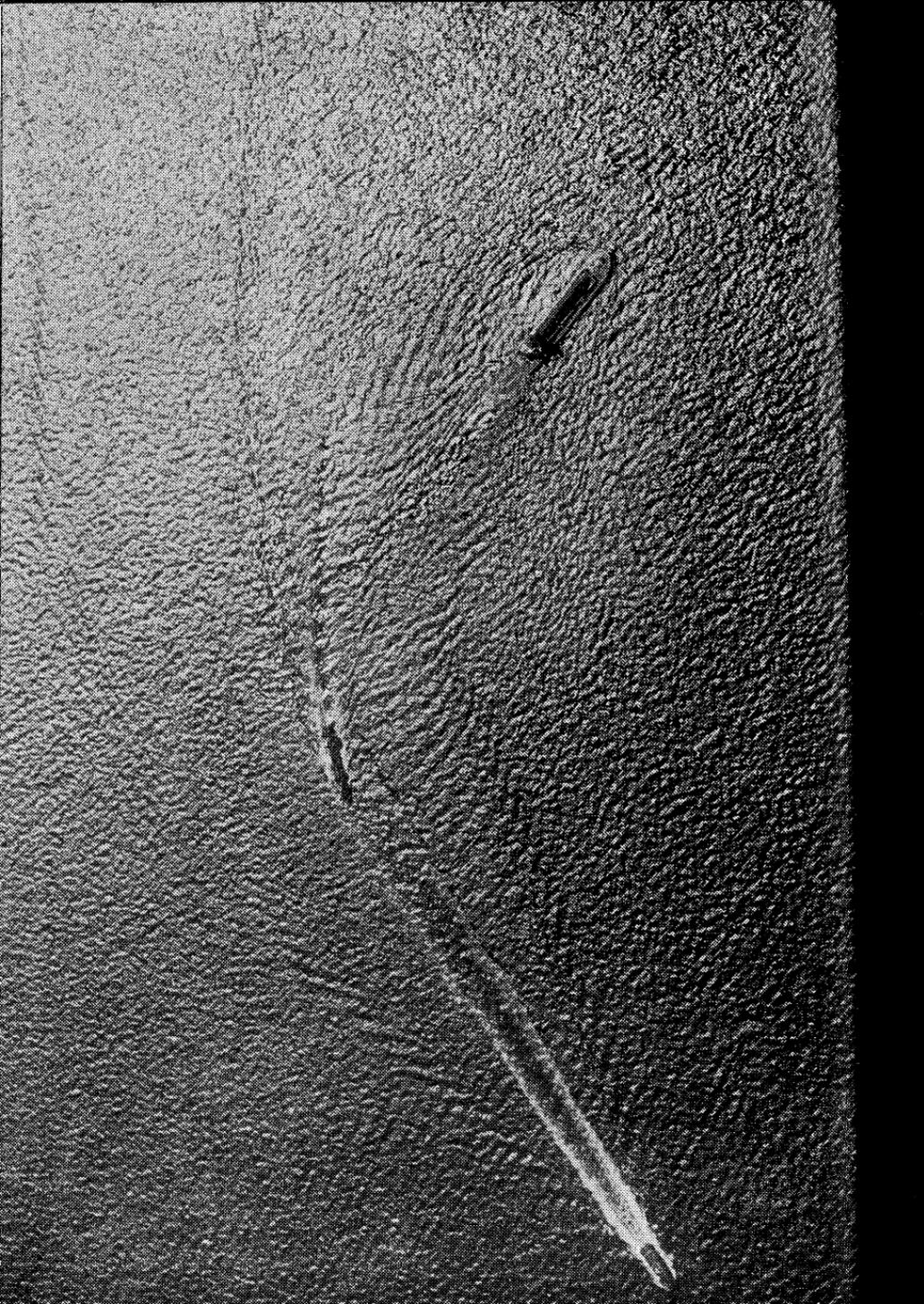
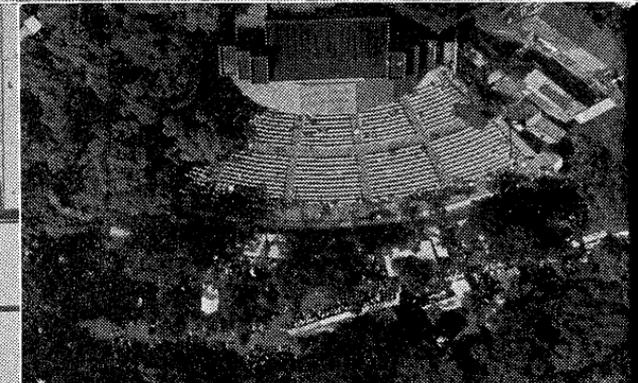
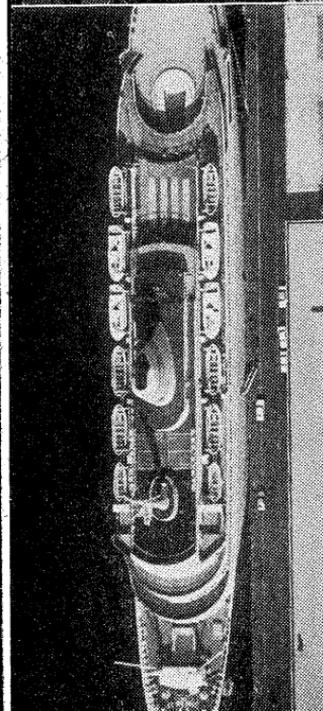
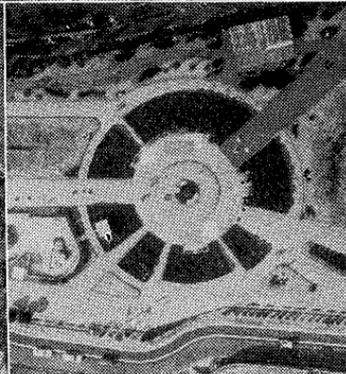
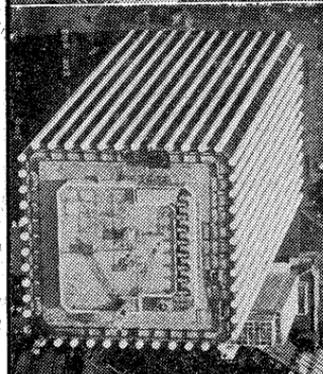
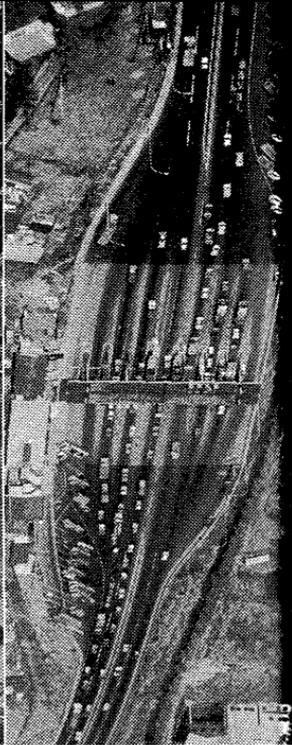
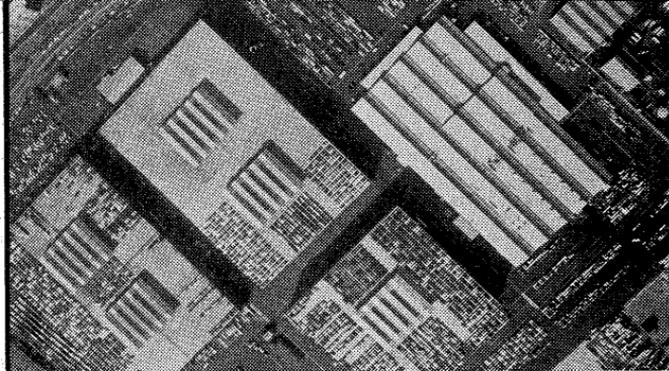


第
3
部

横浜の二〇年







私の横浜

昭和三十八年四月に横浜に革新市政が生まれてから一二年になろうとしている。

この間、国の高度経済成長政策による人口の都市への流入の傾向は、横浜市では最もいちじろしく、一〇大都市のなかでも最高となっている。そのため、学校、公園その他あらゆる施設の不足や、公害、ごみなど都市問題は、かつてないほど激しくなっている。

そこで、横浜市は、「子供を大切にす市政」、「だれでも住みたくなる都市づくり」の二つを市政の柱にすえ、また、将来に向けて都市の骨格を整備するために六大事業を設定し都市づくりを進めてきた。

そして、権限も財源も限られたきびしい条件のもとで市民生活を守るために、公害防止協定、住民集会、宅地開発要綱、市長への手紙など数多くの横浜方式を生み出してきた。四十七年には、激化する都市問題の中から、公害、ごみ、道路交通、水、公共用地確保の五つを五大戦争として取りあげ、これと積極的に取り組むこととした。

この第三部は、こうした都市問題克服のために、横浜市が努力してきた結果のうち、三十八年から四十八年までの一一年間を中心に、市政の各分野に関するおもな資料をまとめたものである。資料によっては集計の都合で四十七年以前の時点にとどめざるをえなかったものがあり、第一部及び第二部に収録した資料については重複をさけるため割愛したものもある。